子どもの発達障害の有無とソーシャルサポートの満足感が及ぼす母親の育児ストレスの影響について

○服部さつき(1)・伊藤啓介(2)
(1)広島国際大学大学院心理科学研究科実践臨床心理学専攻　(2)広島国際大学心理学部心理学科

問題・目的

北川ら (1995) によれば，子どもにとって，親は精神的・身体的発達のための適切な環境を与え，有効な働きかけをする最大の存在と述べている。障害児の養育は，親の心理的・身体的負担が大きい。それゆえ，“障害児の親を支援する立場にある者は，障害児のニーズに対応するだけでなく，親の精神的・情緒的安定を積極的に支援していくことが重要な課題”と報告されている。

太田（2010）によれば，発達障害児の母親が最も支援を受けているサポート源は配偶者であるが，湯沢ら（2007）は，自閉症児の母親が助けになると感じているサポート源は，“同じ障害児をもつ親，親の会の友人等”だとしている。

本研究では，複数の文献から考察されている，発達障害児の母親が感じているソーシャルサポートへの満足感が，育児ストレスにどのように影響しているか，定型発達児の母親の群と比較，検討することを目的とする。

方法

対象者：ペアレントトレーニングを受講する母親 24 名(発達障害児の母親の群)と A 幼稚園に通う園児の母親の 60 名(定型発達児の母親の群)に調査を依頼した。

手続き：ペアレントトレーニングに参加する母親にトレーニング開始前に以下調査内容の質問紙を配布，終了後回収した。また，A 幼稚園に子どもを通わせる母親には，幼稚園職員に園児の送り迎えの際に質問しを配布してもらい，一週間後に回収した。

調査内容

①属性：母親の年代(単数回答法)，子どもの年齢(自由回答法)

②母親の育児ストレス：今村・高橋(2004)の育児ストレス尺度を使用。18 項目，4 件法

③ソーシャルサポートに対する満足度：阿尾(2014)のソーシャルサポートの満足感尺度を使用。11 項目，4 件法

結果

障害の有無と育児ストレス，ソーシャルサポート源ごとの満足感について階層的重回帰分析を行った。($F(7,57)=6.634$, $p<.001$)その結果を Table.1 と Table.2 に示した。

Table.1 各ソーシャルサポートへの満足感における平均値と統計量

	障害児親群		定型発達児親群					
	平均	SD	平均	SD	係数	α係数	*t* 値	*p*値
行政のサポート(最大20点)	11.67	2.35	11.05	2.28	-1.45	.640	1.44	.154
家族のサポート(最大12点)	7.79	2.23	7.66	2.4	-0.68	.811	0.91	.369
近隣者のサポート(最大12点)	6.63	1.24	7.49	1.87	2.74	.776	1.44	.156

Table.2 各サポートの満足度が育児ストレスに及ぼす影響

変数名	育児ストレス合計
障害有無群分け	.535 **
行政サポート	-.011
家族のサポート	.111
近隣者のサポート	.071
有無群分け*行政サポート	.179
有無群分け*家族のサポート	.085
有無群分け*近隣者のサポー	-.245
R^2	.402 **

** $p < .01$

以上のことから，障害児親群と定型発達児親群のソーシャルサポートの満足感における育児ストレスへの有意な影響はみられなかった。

考察

本研究では，分析によって両群の各サポートの満足感について有意な差を見ることはできなかった。しかしながら，多くの先行研究での指摘の通り，障害児を育てる母親は，定型発達児を育てる母親よりも育児ストレスが高いことが確かめられた。今回の対象である障害児親群がペアレントトレーニング参加者であることもあり，積極的にサポートを受けようとしている群である特徴が考えられた。湯沢ら(2007)は，障害のある子どもを育てるという同じ悩みを持つもの同士が支えあうことで，子育てに対する前向きな気持ちを支える効果があると述べられている。ペアレントトレーニングを通して，同じ悩みをもつ母親同士での積極的な交流が，育児ストレスの緩和に繋がっている可能性も考えられた。